

ヘゴ、セウベンノキ、モクタチバナ、ヤツコサウ、キイレツチトリモチ、アラノクマダケラン、ヤマゴンニヤク、ヒロハノコギリシダ。

第二段階 九州、四國の外海側、紀伊南部、(紀伊には栽植を見るのみ) 壹岐水道以南の島嶼及陸地、玄海の島嶼 ビロウ、アコウ、タチバナ、ハマビハ、ツゲモチ、ユズノキ、ヤマモガシ、トキハガキ、ナタヲレノキ(九州の西部にあり、對馬にも及べど東には之を見ず)、カウシウウヤク(九州の西部にあり東には之を見ず) ハカマカヅラ、ミヤコジマツヅラフヂ、クサマルハチ、オホタニワタリ、オホイハヒトデ、シマシロヤマシダ(西には之を見ず)。

第三段階 伊豆及房總半島並に附近、九州全域、防長及隱岐 イチキガシ、ヒメユヅリハ、バリバリノキ、バクチノキ、クロガネモチ、ネズミモチ、ミミヅバヒ、タイミンタチバナ、ヤツデ(日本海にては次の段階に及ぶ)。ハマナタマメ、フウトウカヅラ、ボタンバウフウ(日本海にては次の段階に及ぶ)。ハマオモト、ヤリテンツキ、リウビンタイ、タマシダ。

第四段階 磐城南部海岸地方、能登、佐渡、越後、スダジヒ、ウラジロ。コシダ。

第五段階 陸中南部、羽後等 タブノキ、モチノキ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、イブキビヤクシン(大平洋岸に限る)。ハマボツス。

此次に渡島及日高に終尾の段階あり遺存暖地帯とも見るべき暖地性植物群あり。

抄 録

大石三郎氏: レーチツク、ポストゴンドワナ、フロラの新屬ヤベエルラ屬 *Yabeiella* OISHI. in Jap. Jour. Geol. & Geogr. viii. p. 259-267, t. 26. 1931.

地球上最古の被子植物として一九二三年 J. H. HOSKINS 氏は北米の石炭紀最下部より Angiospermophyton を発見せりと云ひしも A. C. SEWARD 教授によれば、之は *Medulosa* の葉柄にして *Myeloxylon* なりと云はれ、被子植物の最古のものは矢張り H. THOMAS 氏が Yorkshire の侏羅紀より発見せる一種の果實是なりと云ふ、然るに 1929 年 G. R. WIELAND 氏はアルゼンチンの三疊紀最上部の レーチツク層よりトネリコ屬 (*Fraxinus*) 近似の被子植物の果實を発見したりと稱し、之を *Fraxinopsis minor* 及び *F. major* の二種として記載せり。若し果して此新屬植物の果實が被子植物のものなりとせば、地球上最古の被子植物は又更に遡りて三疊紀最上部を起源となす事になる。大石氏は WIELAND 氏の *Fraxinopsis* 果實は一種子双子葉

のものに非ずして Podozamites の Cycadocarpidium の如く二種子を保有するものと考へたく、之こそ WIELAND 氏の所謂 Hemi-Conifer なるべしと云ふ、それで地球上最古の双子葉植物は又侏羅紀へとひきあがれり。

WIELAND 氏は又 Fraxinopsis と共に産する一の Taeniopteroid leaves 亦双子葉植物のものなるべしと云へり。大石氏は此植物の所屬は不明なれども双子葉植物には非るべく Stangeria や Taenitis に類せる裸子植物か羊齒類似の植物なるべしと云ひ、南米アルゼンチン、亞弗利加、印度等の三疊紀最上部（レーチツク）より侏羅下部（リアス）に亙り生存せるものにて Rhaetic Post-Gondwana Flora の要素として著甚なるものとし東北大學矢部教授の記念として Yabeiella 屬を設立し、次の諸種を包括せしめたり。

- Yabeiella mareyesica (Geinitz) Oishi. アルゼンチン
 Y. brackebuschiana (Kurtz) Oishi. 南亞弗利加
 Y. Wielandii Oishi. アルゼンチン
 Y. spathulata Oishi. アルゼンチン
 Y. ? dutoiti Oishi. 南亞弗利加
 Y. ? crassinervis (Feist) Oishi. 南亞弗利加、印度、濠洲(?)、新西蘭土(?)

(小泉源一)

フルテン氏：ミヅバセウ屬 E. HULTÉN & H. S. JOHN: The American Species of Lysichitum, in Sv. Bot. Tidsk. xxv. (1931). p. 453.

ミヅバセウ屬 (Lysichitum) には從來唯ミヅバセウ [Lysichitum camtschatense (L.) SCHOTT] の一種のみ知られしが、ベーリング海の兩側に各一種づゝ分布すること明になれり、西側のものは即ちミヅバセウ (L. camtschatense SCHOTT.=L. japonicum SCHOTT.=L. album MAKINO) にして、佛燄は白色、花に香氣なく、肉穂花序は他の一種より一般に小形、花被片も亦小形にして2—3ミリあり、花被片の上部はより多肉、雄蕊は抽出し葯は頗る小なり。西南カムサツカ、千島、北海道、本島、樺太及び黒龍江河口の Primorsk 地方に分布す。

他のベーリング海東側の新種はキバナミヅバセウ (L. americanum HULTÉN & JOHN) にして、佛燄は薄黄色を呈し、花は Skunk の臭氣を有し、肉穂花序も大形、花被片は3—4ミリあり、其上部は膜質なり、葯はミヅバセウのより大形にして彼の如く著しく抽出せず。Alaska 南岸地方、Sitka 島、British Columbia, Washington, Oregon, California 諸州の海岸及び西部 Montana 州の地方に分布す。

本屬は小泉の洪積世沼野要素と稱するものゝ一にしてベーリング要素の一なり。

(小泉源一)